

りも1.7倍弱の7000トン余であつたが、3月以降これらの漁獲はまつたくなく、各船とも小サバを主対象とするにいたつた（前年3月の同港での水揚量は約900トン）

定置網漁業： 42年11月以降、外房瀬戸漁場を先発として、外房海区では鴨川、江見、和田、白子の各漁場。また内湾海区では金谷、波左間、香、岩井、勝山、保田の各漁場が着業し、操業を続けているが、各漁場とも2月以降の漁況にはほとんど見るべきものがなく、大部分の漁場が極めて深刻な不漁に見舞われているようである。

本年の特長としては、外房海区では例年1月、3月の2期に分けて乗網する南下ブリ漁が皆無の状態であり、またアジの漁獲も激減するところとなつている。外房海区での特異なものとしては、初漁期以後1月頃まではイカと小型のムツが例年になく出現し、2月中旬には少量ながらインダイが各漁場に共通して漁獲されており、海況的には漁場における水温低下が顕著であつた。内湾海区においても各漁場とも、小サバ、イカ、アジ等の少漁をみるのみで、長期間不況の経過をたどるものが多くなつている。

小型一本釣漁業： 小型一本釣漁船の漁況は銚子、外房沿岸でのサバはね釣漁場の不成立を主因として、全般に不振のうちに終始した感が強いが、外房北部沖で前年秋以降スルメイカ漁が比較的長期にわたつて持続し、また才1表にみられるように1月以降にはメダイ（魚体小）が好漁をもたらしたのを始めとして、2月以降にはキンメ、3月以降にはアコウ等がこれに加わり、底魚類が不時の大漁をもたらした。

才1表 勝浦港における底魚類の水揚量  
(1~4月)

魚種	水揚量 (トン)		
	41	42	43
キンメ	67	84	127
メダイ	10	4	98
アコウ	5	6	25
ムツ	2	2	1
合計	84	96	251

## 5 本年冬春における伊豆諸島近海の海況と漁況

阿部 登（東京都水産試験場大島分場）

### 1 まえがき

昭和38年初冬～春季にかけて伊豆諸島近海の水温は極度に低下し、多数の魚類がへイ死漂流するのがみられた。以後39年～42年まで大体低温年を持続してきたが、43年2月から再び低水温に見舞われ、現在なおその傾向を示している。この低水温は伊豆諸島に限らず東海および関東南岸一帯に現われており、特に伊豆諸島近海の低水温が顕著で、38年と異なり長期間持続

していることが特徴である。

今春の低水温の出現にともない、伊豆諸島近海のハマトビウオ、ムロアジ、カジキ類、底魚類の漁況に著しい変動が認められた。ここでは今春出現した低水温について、2、3報告する。

## 2) 調査の方法

昭和39年度から実施している漁況海況予報事業の沖合定線調査および地先定線調査資料によつて考察した。

沿岸調査は、大島(トウシキ、大島分場)、新島(前浜、測候所)、三宅島(坪田、坪田漁業協同組合)、八丈島(三根、八丈分場)で調査している定置観測資料を使用した。

## 3) 調査の結果

### 1) 海況の概要(43年1月~5月)

42年末から、43年始めにかけて、伊豆諸島北部海域では、かなり強い東向流(推定3~4kt)に見舞われたが、1月6日頃から弱まり大島近海で1~1.5ktの東向流となつた。

水温の分布は、42年12月よりも更に2~4℃の降温となり、伊豆半島沿岸部で15℃、大島、新島近海で16~18℃、三宅島近海で18~18.5℃を示し、表面から100m層まで水温の変化は殆んど認められなかつた。

2月には黒潮流軸の南偏にともない、また冷水塊の影響等により、調査海域の水温は更に下降し1月よりも1~2℃低い14~16℃の水帯がみられた。八丈島近海の水温の低下は著しく同島の定置観測水温は13~15℃台(2.25~3.2日)と38年並、また昨年比べて約3.5℃の低温となつた。

この水温低下も3月下旬(3.19日)には回復のきざしがみられ大島近海で18~19℃三宅島、御蔵島近海で16~17℃の水帯が分布した。しかし北部海域の大島、新島近海では13~14℃と引き続き低水温を持続した。

4月に入つても黒潮流軸が南偏(青ヶ島近海)しているため全般的に伊豆諸島近海の水温の昇温は顕著ではなかつた。鳥島~大島間の表面水温は、青ヶ島E2理で19.2℃が観測されたほか、鳥島から八丈島S10理まで18.4~18.6℃を示し、大島近海では14℃の低水温におぼわれている。中旬には三宅島、八丈島、青ヶ島東側沿岸部で大型クラゲが発生し水色不良(透明度、三宅島沿岸部10m、伊豆半島東岸12m、その他の海域16~20m)であつた。水温低下のため、各島地先で操業されている春とび漁況は不振となつた。

5月には、大島、新島近海でも幾分水温の上昇がみられたが、例年に比べると低水温を持続し、昨年よりも表面で約3℃の降温となつている。表面水温の分布は、大島、新島近海で17℃、三宅島東沖から新黒瀬で20℃の水帯がみられた。100m層では伊豆半島~大島近海で12~13℃、三宅島で15℃と昨年よりも3~5℃の低温となつている。

## 2) 海況変動

### (1) 沿岸水温(定置水温)

38年、43年の低水温を比較するため、大島、新島、三宅島、八丈島で観測された日別水温、旬別平均水温の変化を才1表に示した。この資料によると、1月から5月までの各地の沿岸水温は全般的には38年よりも高目となつた。

才1表 観測地点別旬別平均水温

島	大島(トウシキ)				新島(前浜)				三宅島(坪田)				八丈島(三根)			
	38	43	T	T-t	38	43	T	T-t	38	43	T	T-t	38	43	T	T-t
年月旬	(t)				(t)				(t)				(t)			
1 上	158	177	167	+1.0	151	155	162	-0.7	162	166	172	-0.6	173	178	185	-0.7
1 中	142	153	163	-1.0	129	147	155	-0.8	148	165	168	-0.3	150	161	181	-2.0
1 下	132	156	157	-0.1	112	135	149	-1.4	137	151	160	-0.9	141	151	176	-2.5
2 上	144	151	157	-0.6	125	125	149	-2.4	136	141	160	-1.9	142	162	176	-1.4
2 中	140	152	155	-0.3	126	129	148	-1.9	142	143	160	-1.7	137	165	174	-0.9
2 下	134	147	154	-0.7	122	124	147	-2.3	135	144	160	-1.6	139	156	172	-1.6
3 上	124	139	154	-1.5	117	135	149	-1.4	134	148	162	-1.4	157	151	175	-2.4
3 中	140	134	157	-2.3	137	130	153	-2.3	161	136	168	-3.2	166	159	176	-1.7
3 下	151	137	159	-2.2	153	140	159	-1.9	167	158	171	-1.3	157	179	177	+0.2
4 上	140	145	163	-1.8	144	156	163	-0.7	157	165	178	-1.3	176	178	183	-0.5
4 中	153	155	167	-1.2	161	161	169	-0.8	177	171	183	-1.2	175	179	188	-0.9
4 下	161	161	175	-1.4	168	168	174	-0.6	188	172	189	-1.7	187	178	194	-1.6
5 上	172	170	180	-1.0	176	171	183	-1.2	185	176	196	-2.0	195	176	200	-2.4
5 中	176	169	190	-2.1	186	168	194	-2.6	204	168	208	-4.0	191	182	209	-2.7
5 下	185	178	199	-2.1	194	177	204	-2.7	196	180	211	-3.1	185	204	214	-1.0

1月、大島で1.7℃、新島2.8℃、三宅島1.0℃、八丈島で0.9℃の高温を示し、2月にも各地で0.5℃～2.1℃の高目となつた。3月、4月には大島で1.3～1.5℃、新島で1.3～1.6℃と38年よりも僅かながら高目(0.2～0.6℃)となつている。これに対し三宅島、八丈島では低温となり、三宅島では3月0.7℃、4月0.5℃を示し、八丈島では38年並となつている。5月には38年に比べて各地とも低温となり、新島、三宅島で特に顕著であつた。すなわち、大島では38年よりも0.6℃、八丈島0.2℃、新島1.9℃、三宅島で2.0℃の低温となつている。

このように、本年の低水温は現在なお持続しており、大島の沿岸水温についてみると、6月中旬19～20℃台で平年水温に比べて約1℃低い。いずれにしても、2月以降黒潮流軸の変動が激しく、また黒潮の弱勢のため海況の好転のきざしもみられず、不安定な海況を持續して

いる。

### 3) マカジキ漁況

#### (1) 概 要

伊豆諸島近海は、アジ、サバ、カツオ類のほか、カジキ類の回遊が多く、カジキ類でもその主体をなすものは、春季のマカジキである。漁獲量は年により異なるが、好漁年には約300～400トンが三宅島、神津島、銭州近海を中心とした海面で、突棒により漁獲されている。漁獲物の殆んどは伊豆下田港、大島波浮港に水揚げされており、一部が千葉県勝浦港および千倉港に水揚げされている。しかしその数量は僅か5トン(100本)前後と推定されている。

近年この突棒漁業についても重要視され、ハマトビウオ、アジ、サバ、とともに伊豆諸島の重要漁業として伸展しつつある。

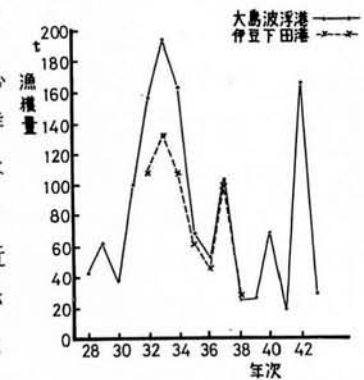
#### (2) 漁獲量の変遷

28年から43年までの16年間、大島波浮港、伊豆下田港におけるマカジキの漁獲量を才1図に示した。これによると、好漁年は31～34年および37年と42年で、不漁年は28年～30年、35、36年、39～41年と43年である。最近では冷水の出現した38年と43年にいずれも不漁年となっており、1月から5月までの漁期間に僅か25～29トンが漁獲されているのみである。

#### (3) 漁 場

伊豆近海漁場の場合、2月から5月まで三宅島を中心とした海面で操業されている。早い年には1月から魚群の来遊がみられるが、大体2月から5月まで盛漁期は3～5月である。

漁場は三宅島周辺から始まり、銭州、神津島、新島近海と年によつて大室出し漁場を含めた広い海面に漁場が形成される。才2表・才1図の年別漁獲量にみられるように、大島、下田港ともほぼ類似した漁獲量傾向を示している。32年から34年についてみると、大島よりも



才1図 マカジキ漁獲量

下田港で漁獲量において約50トンが減少している。これは中心漁場が三宅島、新島近海に形成されたためと思考される。すなわち漁場の地理的条件で、銭州、神津島近海に形成された場合は、漁獲量は下田港が多く、三宅島、新島、大島近海で漁獲された場合は、その殆んどが大島に水揚げされている。いずれにしても漁期間の総水揚げ高は両者とも大差はない。

今春は前述したように、黒潮流軸の南偏と、諸島全域が冷水におろわれたため、漁況は不振となり、八丈島S15 埋付近と、三宅島SE10 埋付近で若干の漁獲をみたのみである。

#### (4) 海況と漁況との関係

伊豆近海におけるマカジキの中心漁場は三宅島を中心とした北部海域であり、黒潮流軸の

才2表 マカジキ漁獲量

単位：トン

年別 水揚港	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
波浮港	43	46	38	100	157	194	164	68	52	103	25	26	69	18	166	29
伊豆下田港	—	—	—	—	108	132	108	62	46	100	29	—	—	—	—	—

注 伊豆下田港の一印は未調査

変動により、その漁況も著しく変動する。海況と漁況の関係については、種々検討しなければならない最も重要な問題であるが、時間的關係もあり、今後充分検討し、稿を改めて報告する予定である。

漁場形成の条件として概念的には春季黒潮流軸が接岸し、三宅、御蔵島近海を流去し、この近海に潮境が形成されることが才一条件と考えられる。38年、43年の如く黒潮流軸が南偏し、伊豆諸島全域が冷水域におくられる場合は不漁年と考えられる。

以上今春伊豆諸島近海における海況と漁況について、その概要を記述したが、総括としては、38年春季の異常冷水には及ばないまでも、38年に近い冷水年であることには間違いない。38年には3月下旬から回復しているが、本年は2月以降現在まで低水温の状態を持続しており、何時海況が回復するかその予測が困難である。伊豆諸島における漁況にしても銭州漁場のサバの好漁は別として、ハマトビウオ、ムロアジ、カジキ、底魚類等、伊豆諸島の重要漁業の大半が、今春の冷水により全くの不振に終つたことは、今後の伊豆諸島漁業経営に大きな打撃を与えたことは確かである。

## 6 43年冬春季における相模湾の海況・漁況

中田尚宏（神奈川県水産試験場）

### 1) ま え が き

相模湾の海況は伊豆諸島近海を流れる黒潮並びに相模湾内に流入する黒潮分枝の勢力の消長に大きく左右される。今年冬春における相模湾の海況の季節的周期変化が若干異常なので、沿岸定線調査結果から表面水温経過と、2・3の漁況の特徴を述べる。

### 2) 結果の要約

表面水温を見ると、1月は14～16℃で平年より0.5℃高いが、1月下旬の黒潮流軸の南下に伴ない2月は13～15℃で平年より1℃低くなり、3月には12～14℃で平年より1.5℃低くなつた。しかし、3月下旬に黒潮流軸の一時的北偏があつたため、4月は13～16℃で平年より1℃低目と若干低温化は弱まつたが、昇温期の5月も15～17℃と湾内に16℃台の水